

参考資料



東金市立東小学校 6年 伊藤 花



中の島大橋

1 総合計画策定の体制

第1章

第2章

第3章

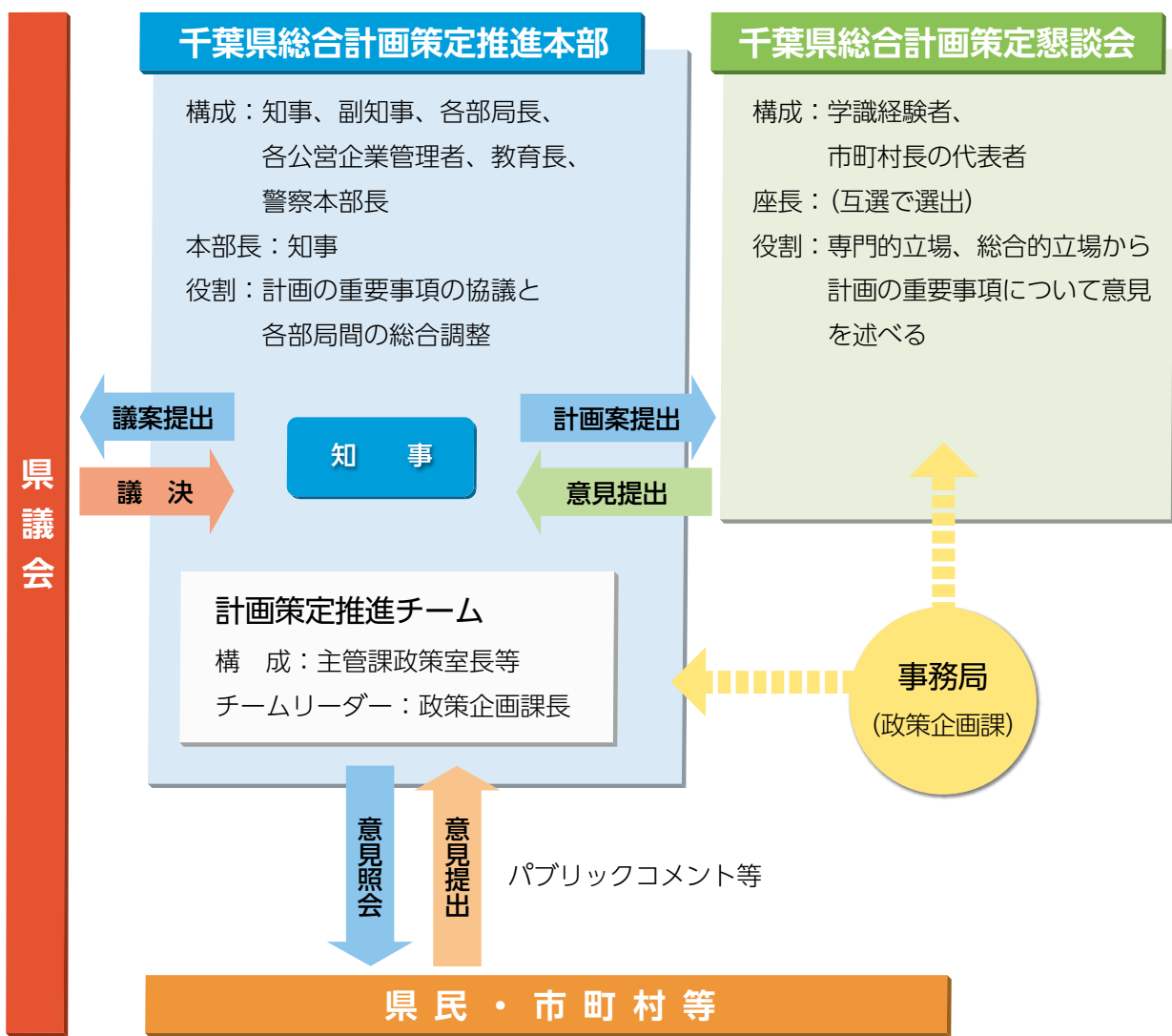
第4章

指標

用語解説

参考資料

索引



2 総合計画策定の経緯

平成 25 年	
4月12日	4月臨時県議会で知事が新たな総合計画の策定を表明
4月25日	第1回総合計画策定推進本部会議
5月9日	第2回総合計画策定推進本部会議
5月21日	第3回総合計画策定推進本部会議 原案公表
5月24日～6月24日	原案に対するパブリックコメントの募集
5月29日	第1回総合計画策定懇談会
6月7日	市町村等企画担当部課長会議
7月25日	第4回総合計画策定推進本部会議 第1回総合計画の進行管理に関する有識者懇談会
7月29日	第2回総合計画策定懇談会
8月29日	第5回総合計画策定推進本部会議 計画案公表
10月22日	県議会において「新 輝け！ちば元気プラン」を可決 県議会において附帯決議を可決(※)
10月23日	計画決定

※総合計画に関する附帯決議について

平成25年9月定例県議会において、「県の引き続き厳しい財政状況の中、さらには目まぐるしい社会情勢の変化の中、着実に新たな総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」が推進され、「暮らし満足度日本一」が確実に達成されるよう。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を受け、この好機を逸することなく千葉県経済のさらなる発展に繋げるため、知事とともに県議会としても協働して計画の推進の意思を示す。」趣旨から、次のとおり附帯決議が提案され、可決されました。

議案第15号「千葉県行政に係る基本的かつ総合的な計画の変更について」に関する附帯決議

知事は、新たな総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」の実施に当たって、次の事項について適切な措置を図ること。

1. 県財政は、引き続き厳しい状況にあるが、「暮らし満足度日本一」を目指し、効率的、効果的な財政運営を行い、総合計画の施策の推進に努めること。
2. 計画の進捗率の公表など、県民にわかりやすい進行管理体制を確立し、施策事業の評価を適切に行い、その結果を施策にきちんと反映させていくこと。
3. 時代潮流、社会環境の変化に的確に対応していくため、計画に計上されていない新たな政策課題についても迅速に対応していくこと。
4. 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受け、経済面等において千葉県がその効果を十分に享受できる環境づくりとして、観光の振興、道路交通網の整備、統合リゾート(IR)の検討など、必要な施策を推進していくこと。

以上、決議する。

平成25年10月22日

千葉県議会

3 千葉県総合計画策定懇談会委員名簿

(敬称略、50音順、◎座長、○副座長)

	氏名	役職
○	あかし 明石 よういち 要一	千葉大学名誉教授
◎	いしい 石井 としあき 俊昭	一般社団法人千葉県商工会議所連合会会長
	いのうえ 井上 ゆうげん 雄元	公益社団法人千葉県医師会会長
	いわた 岩田 としお 利雄	千葉県町村会長(東庄町長)
	おかべ 岡部 あきこ 明子	千葉大学大学院工学研究科教授
	くぼ 久保 みわこ 美和子	千葉県保育協議会会長
	くらか 倉阪 ひでふみ 秀史	千葉大学大学院人文社会科学研究科教授
	こみや 小宮 のぶお 信夫	立正大学文学部教授
	さかもと 坂本 まさのぶ 雅信	千葉県漁業協同組合連合会代表理事会長
	さじ 佐治 しげこ 薫子	千葉県少年少女オーケストラ音楽監督
	しが 志賀 なおはる 直温	千葉県市長会長(東金市長)
	しらと 白戸 あきお 章雄	社会福祉法人千葉県社会福祉協議会会長
	すずき 鈴木 ひろし 裕士	富洋観光開発株式会社代表取締役
	たなべ 田邊 のぶゆき 信行	一般社団法人千葉県高齢者福祉施設協会会長
	のぐち 野口 けん 健	アルピニスト
	はやし 林 しげとし 茂壽	千葉県農業協同組合中央会会長
	ほらだ 原田 としこ 壽子	立正大学名誉教授
	ほんざわ 榛澤 よしお 芳雄	日本大学名誉教授
	ふじの 藤野 しんじ 伸司	新日鐵住金株式会社常務執行役員君津製鐵所長
	ますだ 増田 あけみ 明美	スポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授
	みずの 水野 はじめ 創	株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長
	みやいり 宮入 さよこ 小夜子	日本橋学館大学リベラルアーツ学部教授
	よし井 吉井 ひろあき 博明	東京経済大学コミュニケーション学部教授

役職は委員就任依頼時(平成25年4月)

第1章

第2章

第3章

第4章

指標

用語解説

参考資料

索引

4 「輝け！ちば元気プラン」(平成22年度～平成24年度)の評価結果

総合計画の進行管理については、政策評価の手法を活用して行っており、35の施策項目ごとに、「3年間の主な成果」「課題」「新 輝け！ちば元気プランへの反映」について評価・検証し、総括を行いました。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
I 安全で豊かな暮らしの実現	1 安全で安心して暮らせる社会づくり	①犯罪の起こりにくいまちづくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刑法犯認知件数は10年連続で減少しており、平成22年に全国最多を記録したひったくりの発生件数については、23年に半減させることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 刑法犯認知件数は減少していますが、高齢者や女性を狙った振り込め詐欺やひったくり等の身近な犯罪は依然として高い水準で発生しています。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、警察基盤の強化だけでなく、県民・地域団体や事業者団体、学校・教育団体等の各団体や市町村等と連携・協働して地域に密着した活動を推進し、より一層、安全で安心なまちづくりを進めます。
		②災害に強い県づくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急輸送道路などの橋りよりの耐震化や県立学校の耐震化など、災害に備えた社会資本の整備が順調に進みました。また、東日本大震災の教訓を踏まえ、千葉県地域防災計画の修正を行うとともに、帰宅困難者対策訓練や津波避難訓練等を実施しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の予測では今後30年間で本県を含む南関東地域において大規模地震が約70%の確率で発生するとされていることから、想定される大規模地震に備え、津波や石油コンビナートの大規模火災など様々な事象に対応しうる社会資本の整備や耐震化などの取組により災害に強い県づくりを進める必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災の教訓を踏まえ、地震・津波などの大規模災害に対しては、「自助」「共助」の取組とこれらを支える「公助」が一体化した地域の防災力を高めることが必要です。このため、自主防災組織の育成強化や防災教育の推進、災害時の道路ネットワーク強化等の災害に強い社会資本の整備により、県内全域の防災力の向上を進めるとともに、震災からの一刻も早い復旧・復興に努めていきます。
		③危機管理体制の確立	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画期間内に抗インフルエンザウイルス薬の備蓄を適切に行ったほか、警備体制の強化により、テロ・ゲリラの発生を完全に防圧することができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模災害やテロ等の県民の安全を脅かす緊急事態が発生した場合に、迅速・的確な対応を行うため、危機管理体制強化と職員一人ひとりの意識の向上を図る必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と連携を強化するとともに、職員一人ひとりの危機管理に対する意識向上を図ります。また、放射性物質事故対策については、国等の対策の動向を踏まえ、地域防災計画を修正するなど、迅速かつ的確な事故対応ができる体制づくりに努めます。
		④交通安全県ちばの確立	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全に対する意識啓発、道路や標識などの交通安全環境の整備等に取り組みました。特に、交通安全運動期間中等における集中的な広報啓発活動の実施、過去に事故が多発している箇所の診断、検討に基づく道路環境の改善等を行った結果、交通人身事故の発生件数・負傷者数は、ともに8年連続で減少しています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故の発生状況は減少傾向にあるものの、全国的に見ると交通死亡件数が依然として多い状況にあります。また、交通事故死者数のうち高齢者の占める割合が高いこと、自転車の関係する事故が交通事故件数の約1/4を占めていることへの一層の対策が必要です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関・団体と連携しながら、参加・体験・実践型交通安全教育の推進や、事故調査委員会の分析に基づく効果的な交通安全施設の整備などを図り、高齢者や自転車の関係する事故防止対策の強化をはじめとする様々な取組により、「交通安全県ちば」を目指します。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
I 安全で豊かなくらしの実現	1 安全で安心して暮らせる社会づくり	⑤消費生活の安定と向上	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の消費者センターは、3年間に9市で新たに開設され、現在までに26市が開設済みとなっているほか、相談員設置市町村も7団体増加したことから相談体制の充実が図られています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットを通じた消費者トラブルや高齢者を対象とした詐欺的商法に関する相談が増加しており、これらへの対策を強化する必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者や若者、民生・児童委員などあらゆる分野に対応する消費者自立支援講座の実施や消費者フォーラムを開催し、被害の未然防止に向けた広報・啓発を図るとともに、悪質・違法事業者を適切・効果的に取り締まるため、現在連携している都県以外の近隣県とも連携を図ります。
		①安心で質の高い医療サービスの提供	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東葛飾北部圏域における救命救急センターの指定、地域周産期母子医療センターの認定などの整備が進んだほか、ドクターヘリの出動実績の増加、小児電話相談事業の利用者増、平成22年度における地域医療連携パスの普及による地域医療連携体制の推進などの成果がありました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県は人口当たりの病院数や医師・看護師等の医療従事者数が全国的にみても少なく、地域偏在もあることが地域医療体制の充実に係る課題となっています。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に必要な医療の安定的な提供を図るため、医師・看護師などの確保・定着の促進を図るとともに、救急医療、周産期医療、在宅医療等の体制の整備に努め、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療体制の構築を進めます。
		②生涯を通じた健康づくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の健康づくりに関する施策の基本計画である「健康ちば21」（計画期間：平成14年度から24年度）の最終評価を行い、成果と課題を踏まえた「健康ちば21（第2次）」を策定しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴い患者が増加している生活習慣病の発症・重症化防止のため、小児期からライフステージに応じた対策や、県民自らが健康づくりに取り組める地域づくりに向けた取組が必要です。また、死因の1位を占めるがんについて、予防や良質な医療提供、患者や家族の支援など、総合的ながん対策の推進が重要です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防を中心に、個人のみでなく家庭・職場・地域にも視点を置いて、ホームページ等を通じた健康関連情報の発信、特定健診のデータ分析結果等の情報提供、市町村・民間企業等と連携したがん検診の普及啓発等に取り組めます。
		③高齢者が生き生きと安心して暮らせる社会の構築	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要な介護施設や在宅福祉サービスの基盤整備の強化、医療・介護が連携した認知症の早期発見・早期治療と適切な支援に向けた取組や福祉・介護人材の確保・育成事業等を行い成果を上げています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、急速に高齢化が進み、施設介護に対するニーズは引き続き高いものと見込まれます。特別養護老人ホームの整備の促進と併せて、認知症や一人暮らしの高齢者が安心して地域で暮らせるよう支援する体制の構築が必要です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護施設の整備促進や在宅医療・介護の推進、市町村が行う地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築の促進、総合的な認知症対策の推進、福祉・介護を担う人材の確保・定着対策の推進など、高齢者が安心して地域で暮らせる社会の構築に取り組めます。
		④障害のある人がその人らしく暮らせる社会の構築	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループホーム等開設支援を行った結果、整備が促進され定員が平成21年度の2,091人から24年度には3,066人へと大幅に増加しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、超高齢社会を迎えるに伴い、高齢期の障害者数の増加が予想されることから、なお一層の障害福祉サービスの充実と地域基盤の整備が必要になります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害のある人の地域社会での暮らしを支援するために、ライフステージに沿ってグループホーム等の地域基盤の整備を図るとともに、身近な地域における相談支援体制や療育支援体制の充実強化を推進します。
⑤互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援体制の整備促進、高齢社会における福祉と住まいの研究等に取り組む、バリアフリー改修への支援体制の構築などについて検討を進めました。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも支援が必要な人を地域で支えることができるよう、様々な主体の相互連携を促進し、地域課題の解決に向けた取組や仕組みづくりを支援するとともに、高齢者をはじめとする多くの県民が地域活動の担い手として活躍できるよう人材の育成等を進めています。 		

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
I 安全で豊かなくらしの実現	3 豊かな心と身体を育てる社会づくり	①国際交流・多文化共生の推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知事トップセールスをはじめ積極的な事業展開により、本県の人材、文化、産業、歴史、施設など豊富なポテンシャルを生かして、アメリカ・ウィスコンシン州、ドイツ・デュッセルドルフ市との国際交流の進展を図りました。また、関係機関との連携促進のための会議の充実を図ることにより、県民をはじめ、市町村・大学・民間団体などの多様な主体が連携しての多文化共生社会づくりを進めるための体制づくりが進みました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる分野でグローバル化が拡大、進行する中で、国際交流・協力の活発化を図るとともに、外国人県民にも暮らしやすい社会づくりを進め、国際社会とともに発展する県づくりを推進する必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の進展や社会情勢の変化等にも対応しつつ、国際交流・協力の展開、国際的に活躍できる若い世代の育成を進めます。 ・県民の国際理解と外国人県民の社会参加のための環境づくり、外国人県民の視点・ニーズを踏まえた情報提供や支援等の充実を図り、外国人県民にも暮らしやすい県づくりと多文化共生社会の実現を目指します。
		②ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティーの醸成	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民主体の文化芸術活動を促進するため、「千葉・県民芸術祭」を県内各地において実施しました。さらに、平成24年度には、幅広い文化芸術団体の参加による連携と交流の場として、新たに千葉・県民芸術祭「中央行事」を開催しました。 ・また、県民の千葉を愛する心をはぐくむため、県内11地域において、県民の日地域行事を実施しました。さらに、平成24年度には、中央行事として「千葉の元気発信CM・ショートムービーコンテスト」を開催し、ふるさと千葉の魅力や元気を県内外に発信しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化団体加入者数は、平成24年度は減少に歯止めをかけることはできたものの、近年減少傾向にあり、引き続き県民への芸術文化に対する興味・関心・意欲を高める手立てを積極的に講じていくとともに、若年層会員の加入数増加に向けた取り組みが必要です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な視点に立ち、県の文化芸術振興の基本目標や施策の方向性等を明らかにした「ちば文化振興計画」を推進します。 ・千葉・県民芸術祭「中央行事」などの充実によって、県民による文化芸術活動の支援と、県民が良質な文化芸術にふれ親しむ機会の拡大を図ります。
		③スポーツの振興	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度に「第65回国民体育大会」「第10回全国障害者スポーツ大会」を開催し、選手・観客・ボランティア等、県民が一体となった大会を成功させました。また、24年度には「ちばアクアラインマラソン」を開催し、13,946人のランナーに加え、約4,500人のボランティアや沿道には31万人もの応援・見学者が関わるなど、関係団体・機関の理解と協力を得て開催し、「する・みる・ささえる」スポーツの推進に寄与しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の健康増進や体力向上の促進のため、より多くの県民がスポーツに取り組めるよう、身近なスポーツ施設の整備や指導者の育成、スポーツ情報の収集・提供を進める必要があります。 ・大規模スポーツイベントの開催等による地域活性化や全国に向けたPRなど、スポーツの新たな役割を踏まえた取組を行う必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害のある人のスポーツの推進、施設整備や指導者の育成等により、すべての県民がスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合いながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う「スポーツ立県ちば」の実現を目指します。 ・経済波及効果や地域の活性化、千葉の魅力発信につながる、アクアラインマラソンのような大規模スポーツイベントの企画・運営に取り組みます。
		①地球温暖化対策の推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ設備等の整備や新エネルギー等の導入などを推進するため、22年度から23年度まで「地域グリーンニューディール基金」を活用して市町村や中小企業事業者が実施するLED照明や太陽光発電設備などの設置に対して補助を行ったほか、一般家庭における住宅用太陽光発電設備補助制度を創設し、市町村と連携して実施してきました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災後、エネルギー情勢が大きく変化し、国の温暖化対策やエネルギー政策の動向が不透明な状況が続いているなど、想定できなかった事情から、施策の進展が予定どおりに図られませんでした。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民・事業者・市町村などあらゆる主体と連携し、東日本大震災後の国における温暖化対策やエネルギー政策の動向を踏まえ、体系的な温暖化施策を推進していきます。 ・県や市町村及び民間事業者における省エネルギーや新エネルギーの導入を推進します。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
I 安全で豊かなくらしの実現	4 みんなで守り育てる環境づくり	②資源循環型社会の構築	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源循環型社会の構築に向け、3Rを推進するため、市町村との協働による県民向けの普及啓発や、事業者への支援のほか、レジ袋削減や食べ残し削減に向けた取組を展開しました。 施策の達成状況について、平成23年度は、東京電力福島第一原発事故による放射性物質の影響により、「一部の進展」にとどまりましたが、平成24年度は、「概ね進展が図られています」に改善されました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 溶融スラグの利用率等については、有効利用できないものが生じるなど、依然として、東京電力福島第一原発事故による放射性物質の影響があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3Rの推進に向け、市町村や関係団体等との連携を図りながら、バイオマスの活用や「ちばエコスタイル」の積極的な展開に努めるとともに、リサイクル製品の利用拡大等に努めます。 また、排出事業者及び廃棄物処理業者等への指導を徹底するとともに、効果的・積極的な広報等を行った上で講習会等を開催し、事業者の意識啓発に取り組めます。
		③豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原因物質の排出抑制に向けて、事業者に対して効果的な指導を行ったことなどから、光化学スモッグ注意報の年間発令日数は、徐々に減少しています。また、二酸化窒素については、平成23年度に31年ぶりに全ての測定局で環境基準が達成されました。 野生鳥獣による農作物等の被害対策のため、市町村が行う捕獲事業に対する支援やイノシシなど有害鳥獣を有効に防除するための調査・研究、捕獲員の養成・確保等に取り組みました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光化学スモッグの原因物質であるオキシダントについては、全測定局で環境基準が未達成であり、引き続き、工場・事業場対策等を進める必要があります。 今後も、本県の豊かな生物多様性と健全な生態系を次世代に引き継ぐため、生物多様性の重要性の普及啓発を図る必要があります。また、有害鳥獣や特定外来生物について、農作物等被害の軽減、生態系への影響の排除のため、捕獲等に一層努める必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気環境については監視を継続するとともに、光化学スモッグ発生時には速やかに注意報等を発令し、原因物質の排出事業者に対し効果的な指導を行います。PM2.5の監視体制の充実を図ります。 有害鳥獣による農作物等被害の軽減のため、市町村が行う捕獲事業に対する支援を行うとともに、有害鳥獣の有効な防除に必要な調査・研究や捕獲員の養成・確保などの取組を推進します。また、緊急の対策が必要な特定外来生物の防除を実施していきます。
II 千葉の未来を担う子どもの育成	1 みんなで支える子育て社会づくり	①子育てを支える環境の充実	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育所定員数については、施設整備に対する助成を行った結果、3年間で約4,000人(政令市、中核市を除く)増加しました。 子ども医療費については、平成22年12月以降、入通院の助成対象を小学校3年生までとし、さらに24年12月からは入院について中学校3年生まで拡大しました。 東上総児童相談所は平成24年9月に一時保護所を開所し、保護を要する児童の受入が可能となりました。富浦学園の建替えについては、25年3月までに管理棟及び居住棟を竣工し、また地域小規模児童養護施設を増設しました。 育児などのために退職し、再就職を希望する女性に対して、「子育てお母さん再就職支援セミナー」等を通じて一人ひとりの状況に応じた就業支援を行うとともに、“社員生き生き！元気な会社”宣言の登録企業に対して両立支援アドバイザーを派遣し、ワークライフバランスセミナーを開催するなど、仕事と家庭の両立支援に向けた取組を行いました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備の促進により保育所定員数は増加したものの、依然として県内都市部を中心に慢性的に入所待機児童を抱えていることから、施設の整備とあわせて、多様な待機児童対策を進めていく必要があります。 また、共働き家庭やひとり親家庭の増加に伴い、昼間保護者が家庭にいない小学生が、放課後を安全に過ごす場所を確保する必要があります。 さらに、育児等を理由として退職し、再就職を希望する女性に対して、就職支援を行うとともに、仕事と子育てを無理なく両立できる環境づくりを進めることが重要です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村と連携し、国の安心子ども基金を活用した補助事業に加え県独自の上乗せ助成を継続して実施することにより、保育所の施設整備を促進するとともに、保育士の確保に取り組むほか、小規模保育や家庭的保育等を推進し、待機児童の解消を図ります。 子どもの保健対策の充実や保護者の経済的負担の軽減を図るため、子ども医療費の助成制度を継続していきます。 働きながら安心して子育てができるよう、放課後児童クラブの拡充と質的向上を図るなど、子育て家庭を支援する環境の整備を一層進めます。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成	2 笑顔輝く、未来支える人づくり	①社会の中で個性が輝く「人間力」の醸成	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育推進のための基本的な方針」に基づき平成22年度から作成している道徳映像教材の活用率が小・中・高等学校とも100%になりました。ボランティア講座や宿泊体験等の体験活動を通じて自他の生命の尊重や人間としての在り方・生き方について、子どもたちが自ら考えることを目的とした教育の推進を図ることができました。 ・小学校における新体力テストの平均点が毎年順調に向上し、目標を達成しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習が困難な状況にある子どもとその家族への対応、人権教育や心の教育の推進を図る必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ガイドの改訂・活用や読書活動の推進により、学ぶ意欲、学ぶ力、活用する力、学習習慣の確立を一層推進します。また、体験活動の充実、発達段階に応じた道徳教育の推進など、胆力、チャレンジ精神にあふれた底力のある人材の育成に取り組み、子どもたちの知・徳・体の全面的なレベルアップを図ります。
		②学校を核とした家庭・地域教育力の向上	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト「親力アップいきいき子育て広場」へのアクセス数、「1000か所ミニ集会」を地域とともに企画運営している学校の割合や放課後子ども教室の実施箇所数など、毎年着実に増加しており、家庭・地域の教育力の向上への成果が表れてきていると考えます。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1000か所ミニ集会」の実施については定着してきているものの、地域住民と連携した開催を一層推進する必要があります。また、学校支援地域本部や放課後子ども教室などの活動を更に推進し、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを進める必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1000か所ミニ集会」や「放課後子ども教室」の効果的な事例を紹介し啓発を図ることにより、学校が地域コミュニティの核となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを一層推進します。
		③豊かな学びを支える教育環境の整備	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価における保護者アンケートにおいて、「学習指導」に関する項目について「満足」「概ね満足」と答えた保護者の割合が、毎年、着実に増加しています。授業研究を伴う校内研修等を行った学校の割合が増加しています。また、魅力ある高等学校づくりを推進するため、平成23年度に「県立学校改革推進プラン」を策定しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質向上のため、研究授業の実施回数や研修参加者数の増加が必要です。また、不登校などの問題を抱える子どもたちに早期に対応するため、スクールカウンセラーによる相談活動を行ってきましたが、今後は小学校への派遣について進める必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力アップのため研究授業の実施回数の増加に取り組むほか、きめ細かな指導を行うため非常勤講師を配置するとともに、優れた知識・技能を持つ外部人材を特別非常勤講師として配置するなど、質の高い多様な教育活動を展開します。また、スクールカウンセラーの小学校への派遣について効果を検証し積極的に進めます。
		④一人ひとりに対応した特別支援教育の推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の高等部本科卒業生の就職希望者の就職率が、企業での実地体験やきめ細かい進路指導等により平成20年度の86.8%から24年度には90.9%にまで増加しました。また、幼小中高の個別の指導計画作成率が81.5%に、個別の教育支援計画作成率が57.8%になり、障害のある幼児児童生徒への支援体制の整備促進を図ることができました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の過密化解消は引き続き課題であり、「県立特別支援学校整備計画」に基づき、過密化解消に向けた整備が必要です。また、個別の指導計画、教育支援計画の作成率を一層高めていくことも課題です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も高等学校の再編等で使用しなくなる校舎の活用や小中学校の余裕教室の活用など検討し、過密化解消を図ります。 ・教職員研修や関係機関との連携により個別の指導計画・教育支援計画の必要性及びその活用について啓発を図り、発達の段階や障害の状態に応じたキャリア教育の充実を図り、幼児期からの一貫したきめ細かな特別支援教育を推進します。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
Ⅱ 千葉の未来を担う子どもの育成	2 笑顔輝く、未来を支える人づくり	⑤多様化する青少年問題への取組	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県子ども・若者支援協議会」を平成24年1月に、問題を抱えた子供・若者のワンストップ総合相談窓口である「千葉県子ども・若者総合相談センター(ライトハウスちば)」を平成24年7月に設置し、子ども・若者に対する総合的な支援を進めました。 ・青少年健全育成条例を平成23年12月に改正し、全国で初めて、スマートフォンの危険性を青少年及び保護者に説明する義務を事業者に課すなど、青少年を取り巻く有害環境の浄化を図りました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニート、ひきこもり等青少年の抱える問題の深刻化に対応し、適切な支援を行う体制の整備を図るため、地域における中核的人材の養成及び、住民に身近な市町村における「子ども・若者支援協議会」の設立について引き続き働き掛けを行っていく必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県子ども・若者総合相談センター(ライトハウスちば)」の機能充実を図り、子ども・若者に係る相談をより適切に実施するとともに、センターの周知を図ります。 ・県内市町村における地域協議会の設置について積極的に働きかけるとともに、困難を抱える若者を適切に支援できる人材を養成することを目的とした講習会を開催します。
		①光り輝く千葉の魅力発信	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリシティ活動による各種メディアへの掲載件数及びテレビ番組の放送時間については、平成20年度の数値と比べてテレビ番組の放送時間については倍増、各種メディアへの掲載件数については3倍増以上と大きく伸びています。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年3月の東日本大震災の影響で、「県産農産物の購入意向」など、目標を達成しなかった指標も一部ありました。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知事のトップセールスや時機をとらえた積極的な情報発信の取組を進めるとともに、国内はもとより海外も視野に入れ、本県のイメージアップと、観光や県産農林水産物など千葉の魅力を発信を進めていきます。
Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備	1 千葉の輝く魅力づくり	②千葉の飛躍拠点である成田国際空港の機能拡充	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年10月に国・県・空港周辺9市町及びNAAで構成する四者協議会において、成田空港の年間発着枠30万回の合意をし、平成24年度末に年間発着枠が27万回となり、年間発着回数は21万回を超え過去最高となりました。また、平成22年7月に成田新高速鉄道(成田スカイアクセス)が開業し、都心と成田空港への交通アクセスが向上しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発着枠30万回の合意による成田空港の機能拡充を、県経済の活性化につなげる必要があります。また、更なる成田空港と都心・羽田空港間の交通アクセスの一層の強化を図るためには、圏央道・北千葉道路の建設促進や鉄道アクセス改善の必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LCCの新規就航や国内線、国際線の充実など、成田空港を取り巻く新たな動きを、時機を失することなく活用し、本県経済の活性化を図るため、成田空港活用協議会を通じて全県の経済活性化につなげる取組を進めます。あわせて、県内外と成田空港との交通アクセスの強化を図ります。
		③東京湾アクアラインによるポテンシャルの開花	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数多くの宝・ポテンシャルに磨きをかけて、県内経済の活性化や地域振興に確実に結び付けるため、「東京湾アクアライン活用戦略」に基づき、市町村や民間団体などと連携して様々な施策を進めました。県内への企業立地件数が3年間で126件になるなど、多くの指標で目標を達成し、計画期間を通じて概ね進展しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアラインからつながる圏央道が、平成25年4月に松尾横芝まで開通したことから、今後は、アクアライン及び圏央道を生かして本県の更なる発展につながるような取組を進める必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアラインは、圏央道と一体となって首都圏の骨格を形成し、広域的な交流・連携の重要な基盤となることから、アクアライン・圏央道沿線地域への企業誘致と産業振興を図ります。
		④魅力満載「千葉の観光」	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数は、震災等の影響により、平成23年に大きく落ち込みましたが、観光プロモーションや観光トイレや案内板等の整備を進めたことにより、地域により差異はあるものの、全体として回復傾向にあります。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数及び宿泊客数については、全体的に回復基調にあるものの、一部、回復に遅れの見られる地域もあることから、本県観光客数の一層の増加を図るため、戦略的・効果的な観光プロモーションを展開する必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏からの観光客や急増するシニア層を意識し、観光関連施設の整備促進や地域が主体となった観光資源の磨き上げを進めるなど、ハード、ソフトの両面から何度でも訪れたい魅力ある観光地づくりに取り組みます。また、アクアラインや圏央道を活用した戦略的・効果的な国内観光プロモーションを展開するとともに、成田空港の発着枠30万回化に向けた訪日外国人の増加を踏まえ、東アジア、東南アジアを重点市場として積極的な誘客を図っていきます。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備	2 挑戦し続ける産業づくり	①新事業・新産業の創出と企業立地の促進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災等の影響もあり、県内製造品出荷額等は目標に達成しない見込みですが、当施策の主な取組である産学官連携促進やベンチャー企業・研究開発型企業の支援強化、技術の高度化・新技術の導入促進で設定した平成24年度の指標は概ね達成できました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県の持続的な経済発展のためには、高い技術力・開発力を誇る企業の集積や、理工・医科系大学等の最先端の研究拠点、県内各地に立地するインキュベーション施設など、本県の持つ優位な資源を十分に活用して、新事業や新産業を育成するとともに、高い技術力を持つ企業の誘致を推進する必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門のコーディネーターの設置等により、企業同士や企業と大学との共同研究、マッチングを促し、産学官の連携による新製品・新技術の開発や新産業の創出を図ります。また、企業支援制度の充実、企業の受け皿となる新たな工業団地の整備に取り組み、企業誘致を一層推進します。
		②中小企業の経営基盤の強化	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大震災により被害を受けた中小企業の早期再建を図るため、融資枠の拡大による資金調達の円滑化支援、商工会・商工会議所等と連携した相談窓口の設置や専門家のサポートチームの派遣など、関係機関と連携して総合的な支援を実施しました。 経済のグローバル化に対応した中小企業の事業展開を支援するため、ジェトロ千葉等関係機関と連携して、県内企業のニーズを踏まえた国際見本市への出展支援や専門家による海外取引支援等を行いました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営革新計画承認件数が目標に達しませんでした。これは、厳しい経営環境の中、企業経営の安定が優先され、経営者の新たな事業活動への取組意欲が抑制されたものと考えられますが、経営基盤の強化のためには経営革新制度は有効な手段であることから、これまで以上に計画の作成支援などが求められます。また、中小企業やベンチャー企業の販路開拓に向け、市場性やブランド力を高めていく必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きく変革する時代に対応し、経営力を強化しながら新たな事業展開を目指す中小企業を支援するため、ワンストップの相談体制を充実させるとともに、必要な融資枠の確保と制度の周知に努め、資金調達の円滑化を図ります。また、「ものづくり認定製品」の認定・周知や、「ものづくり技術展示会」の開催により販路開拓への支援を実施します。
		③雇用対策の推進と産業人材の確保・育成	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国からの交付金を元に設置した基金を活用し、離職を余儀なくされた人に対し、雇用の場の創出・確保を目指した結果、雇用創出人数は、計画実施前の平成21年度と比べて、増加を図ることができました。県の就労支援施設利用者数や職業訓練受講者数は増加傾向にあり、求職者等への就労支援・職業能力開発を通じた雇用創出件数も毎年順調に増加していることから、概ね進展しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基金事業は、平成26年度以降の事業開始が認められていないことから、基金事業終了後の雇用対策に関する財源の確保が課題です。また、県の就労支援施設の利用については全体の利用者数は目標を大きく上回りましたが、各施設とも依然として近隣住民の利用が多いため、遠方の利用希望に応える体制をより強化していくことが課題となっています。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、雇用の維持・雇用機会の創出のための事業を継続することとし、県の就労支援施設の利用についても、地域の状況や求職者のニーズにあった支援を実施していきます。
	3 豊かな生活を支える食と緑づくり	①農林水産業の生産力強化と担い手づくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策を構成する主な取組の個々の指標については、目標を下回った実績値についてもそのほとんどが目標の80%以上に達するなど着実に進展しており、計画期間を通じて政策の実現に向けて寄与していると考えています。 特に、生産力の強化と生産性の向上を推進するためのハウス等施設化面積や優良繁殖和牛の導入、新規需要米等の作付面積などは順調に推移しています。また、農林水産業を志す人に相談や研修等を実施し、実際に就業できるまで支援するとともに、農林水産業での雇用を促進しました。さらに、企業的な農業経営体の育成や企業参入の支援を行い、担い手の確保を図りました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林水産業を取り巻く環境は、国際化の進展による農林水産物の輸入増、個人・実需者等の消費形態の変化、地球温暖化による環境変化や高齢化の進展に伴う生産者の減少及び耕作放棄地の増加等、急激かつ大きく変化しています。本県の農林水産業が今後とも発展していくためには、マーケット需要に対応した力強い産地づくりや、農林水産物のブランド化等による高付加価値化、多様な担い手の確保等を進める必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設化・機械化等による生産基盤の整備や流通体制の整備、6次産業化や農工商連携の推進、海外販路の開拓等により、農林漁業者の所得向上や高付加価値型、高収益型の農林水産業への転換を促進します。また、企業的経営体の育成、意欲と能力のある担い手への農地集積の促進等に取り組みます。

基本目標	政策分野	施策項目	3か年の総括
Ⅲ 経済の活性化と交流基盤の整備	3 豊かな生活を支える食と緑づくり	②緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策を構成する主な取組の個々の指標については、目標を下回った実績値についてもそのほとんどが目標の80%以上に達するなど着実に進展しており、計画期間を通じて政策の実現に向けて寄与していると考えています。 ・ 特に、グリーン・ブルーツーリズム担い手育成塾の修了者数や「千葉の海」丸ごとキャンペーン参加直売所の利用客数は順調に進展し、都市と農山漁村の交流促進が図られ、農林水産業に対する都市住民の理解促進が図られていると考えられます。 ・ また、イノシシ等有害鳥獣被害防止対策等防護柵の延長は順調に進展し、農作物に被害を与えている有害鳥獣被害防止に努めました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 依然として、農山漁村の人口減少や高齢化の進展による集落機能の低下、耕作放棄地や荒廃森林の増加、さらにイノシシなどの有害鳥獣による農作物等への被害が拡大していることなど、数多くの課題を抱えています。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、緑豊かで活力ある農山漁村を実現し、農山漁村の多面的機能の活性化を図るため、グリーン・ブルーツーリズムの推進や直売所の活動強化などを促進するとともに、増加している耕作放棄地や荒廃森林、有害鳥獣被害などの対策を推進することで、農業産出額の向上を進めていきます。
		①交流拠点都市の形成	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成田新高速鉄道(成田スカイアクセス)開業による空港アクセスの利便性向上などにより、千葉ニュータウンの宅地処分がより促進されました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度は圏央道の延伸があり、広域的な幹線道路ネットワークも着々と整備されつつあり、今後は、これまで整備を進めてきた4つの交流拠点都市における成熟したまちづくりの効果を全県的な活力の向上につなげる必要があります。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成田空港の30万回化やアクアライン、圏央道などの幹線道路ネットワークを活用して人・物・財の流動化を図り、県内各地域へ波及させ魅力ある地域づくりを進めます。
	4 活力ある交流拠点都市・基盤づくり	②交流基盤の強化	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 圏央道や東京外かく環状道路などの高規格幹線道路や追加インターチェンジの整備促進、国道・県道の供用(23km)、連続立体交差事業等の推進などの成果がありました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道やバスなどの公共交通網については、地域にとって必要な鉄道・バスの維持・確保とともに、県民ニーズに合った効率的で利便性・安全性の高い整備が必要です。 ・ 道路網については、本県の課題である半島性の解消などのためにも、さらなる広域的な幹線道路網の整備・促進が必要です。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道については、鉄道網の充実強化に向けた検討を進めるとともに、通勤時の混雑緩和や駅のバリアフリー化の推進など、利便性・安全性の向上等に取り組めます。 ・ 道路については、県内外の交流強化に向けて、アクアラインと一体となって、東西日本とつながる首都圏の広域ネットワークを形成する圏央道や東京外かく環状道路、北千葉道路などの広域的な幹線道路ネットワークの整備を促進します。
		③県土の基盤の充実	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクアラインの通行料金の引下げのほか、酒々井インターチェンジや谷津船橋インターチェンジの本体工事を進めたことなど成果がありました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクアラインを含む首都圏の高速道路について、ネットワークとしての機能が十分に発揮できるよう一体的で利用しやすい料金体系が構築されることが必要です。 ・ 都市部では深刻な交通渋滞が発生しており、地域間交流のための機能確保が課題となっています。 ・ 社会資本整備の多くが、更新時期を迎えるにあたり、更新費等の増大が懸念されています。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクアラインの料金引下げ社会実験の効果をアピールするとともに、一体的で利用しやすい料金体系が実現するよう国へ積極的に働きかけます。 ・ 現在事業中の追加インターチェンジは着実に整備し、都市部では、鉄道の高架化や街路などの整備を推進するとともに、県立都市公園の拡充や流域下水道の整備を推進します。 ・ 社会資本の計画的な維持管理を進めます。
	④人にやさしく美しいまちづくりの推進	<p>【3年間の主な成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県が管理する特定道路について、バリアフリー化により高齢者や障害者等の移動の円滑化が図られ、無電柱化により都市景観や都市防災の向上が図られました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、少子高齢化が更に進展することが予測されており、高齢者等に配慮した住まい・まちづくりの推進が一層求められています。 <p>【新 輝け！ちば元気プランへの反映】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関のバリアフリー化については、市町村や事業者に対する効果的な補助を行い整備を促進します。 ・ 道路や建築物などの公共施設については、引き続きバリアフリー化やユニバーサルデザインの普及を図ります。 	

5 個別計画一覧

県では、総合計画のほかに、各分野ごとに政策推進の指針となる計画等を策定し、中期的・長期的な視点に立った県政運営を進めています。

ここでは、分野ごとに策定されている主な計画を紹介します。

策定等年月欄には、新規策定した年月または改定した直近の年月を記載しています。

総合企画部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県国土利用計画(第4次)	平成20年7月	平成29年度	政策企画課
第3次千葉県男女共同参画計画	平成23年3月	平成27年度	男女共同参画課

防災危機管理部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県地域防災計画	平成24年8月	—	防災政策課
千葉県地震防災戦略	平成21年9月	平成30年度	防災政策課
千葉県業務継続計画(震災編)	平成25年1月	—	危機管理課
千葉県石油コンビナート等防災計画	平成24年4月	—	消防課

健康福祉部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県保健医療計画	平成25年5月	平成27年度	健康福祉政策課
第二次千葉県地域福祉支援計画 (改定版)	平成25年9月	平成26年度	健康福祉政策課
千葉県新型インフルエンザ等対策行動計画	平成25年11月	—	健康福祉政策課
健康ちば21(第2次)	平成25年3月	平成34年度	健康づくり 支援課
千葉県がん対策推進計画	平成25年3月	平成29年度	健康づくり 支援課
千葉県次世代育成支援行動計画 (後期計画)	平成22年3月	平成26年度	児童家庭課
千葉県高齢者保健福祉計画	平成24年3月	平成26年度	高齢者福祉課 保険指導課
第四次千葉県障害者計画(改訂版)	平成24年4月	平成26年度	障害福祉課

環境生活部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県環境基本計画	平成20年3月	平成30年度	環境政策課
千葉県青少年総合プラン	平成24年3月	平成26年度	県民生活課
千葉県消費生活基本計画	平成21年3月	平成25年度	県民生活課
ちば文化振興計画	平成24年3月	平成27年度	県民交流・ 文化課
千葉県県民活動推進計画	平成24年3月	平成26年度	県民交流・ 文化課
第9次千葉県交通安全計画	平成23年3月	平成27年度	生活・ 交通安全課

商工労働部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
第2次ちば中小企業元気戦略	平成23年3月	—	経済政策課
千葉新産業振興戦略	平成18年6月	平成32年度	産業振興課
観光立県ちば推進基本計画	平成20年10月	—	観光企画課

農林水産部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県農林水産業振興計画	平成25年12月	平成29年度	農林水産政策課
第2次千葉県食育推進計画	平成25年1月	平成28年度	安全農業推進課

県土整備部

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県広域道路整備基本計画	平成10年6月	—	道路計画課
千葉県橋梁長寿命化修繕計画	平成22年9月	—	道路環境課
千葉東沿岸海岸保全基本計画	平成24年5月	—	河川整備課 港湾課
東京湾沿岸海岸保全基本計画	平成16年8月	—	河川整備課 港湾課
第2次千葉県住生活基本計画	平成24年2月	平成32年度	住宅課

水道局

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
おいしい水づくり計画	平成19年3月	平成27年度	計画課

病院局

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
千葉県病院局中期経営計画(第3次)	平成24年3月	平成28年度	経営管理課

教育庁

計画・構想の名称	策定等年月	目標年度(年)	担当課
みんなで取り組む「教育立県ちば」プラン(千葉県教育振興基本計画)	平成22年3月	平成26年度	教育政策課
第11次千葉県体育・スポーツ推進計画	平成24年3月	平成28年度	体育課

6 千葉県図



人 口 6,192,351人

世帯数 2,571,359世帯

資料：「千葉県毎月常住人口調査月報」（平成25年9月1日現在）

面 積 5,156.62km²

資料：国土交通省国土地理院「平成24年全国都道府県市区町村別面積調」（平成24年10月1日現在）